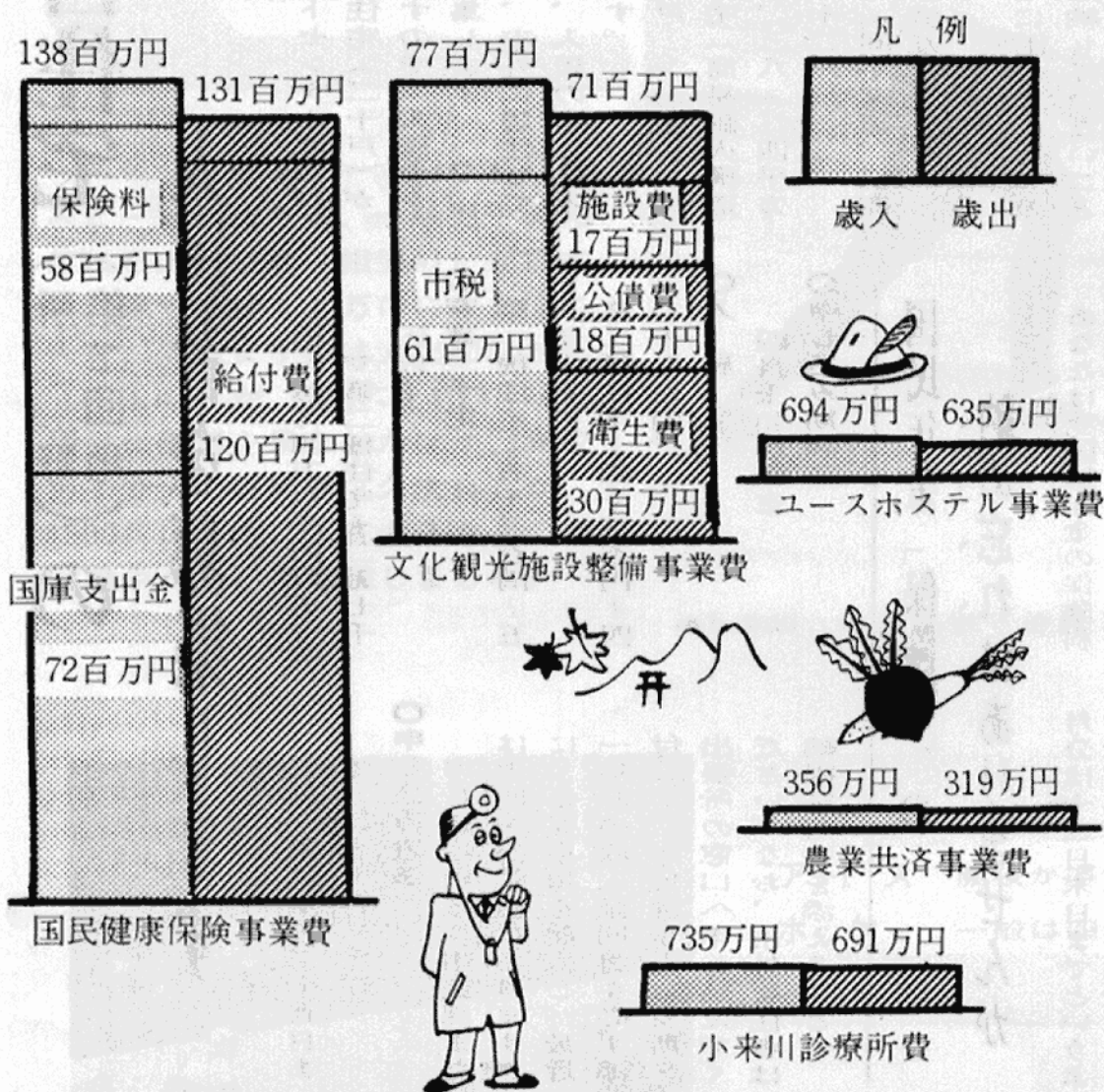
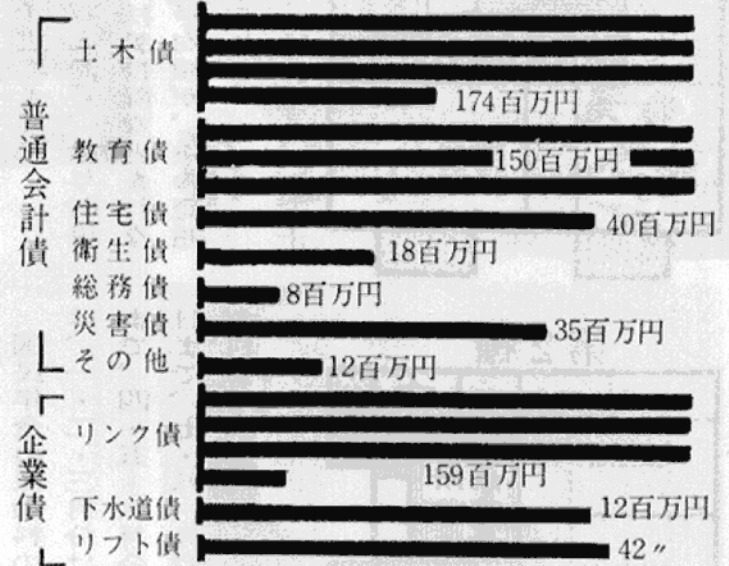


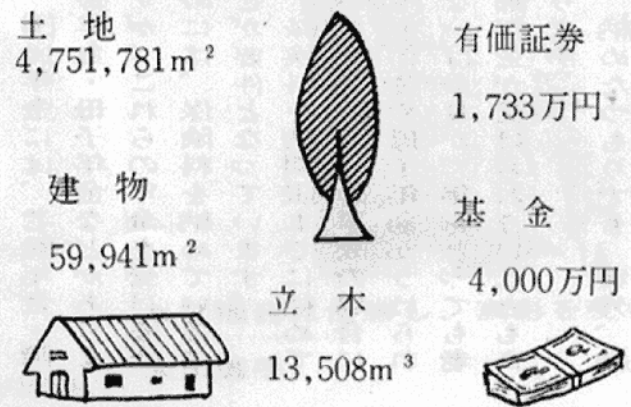
### 昭和45年度 特別会計の決算状況



### 市債の状況 (46.3.31現在)



### 市有財産 (46.3.31現在)



## 市史編さん室

### だより

#### 二月の市史

##### 二宮尊徳

##### 日光奉行手附となる

嘉永六年二月

尊徳が日光奉行手附となり日光御神領仕法に着手することになったのは嘉永六年(一八五三)二月のことです。

当時の日光御神領は八十九か村で、戸数四千百十三軒、人口は二万一千百八十六人、馬二千六百六十九頭で、一五戸に一頭の割合でした。

田畑の開発を奨励した御神領仕法について、領内の農民は「御神領は日光祭田であるため、租税は少なくてすんで、荒地を開くのは多額の費用がかかるうえに、開発地からの増収で、田租を永久的に増額する意図であろうと推測し、実施すれば直ちに日光奉行所に訴え、中止をはかろうとせん動する者も出るなどこの増税策に対する疑念は、生活に直結するだけに、根強いものがありました。

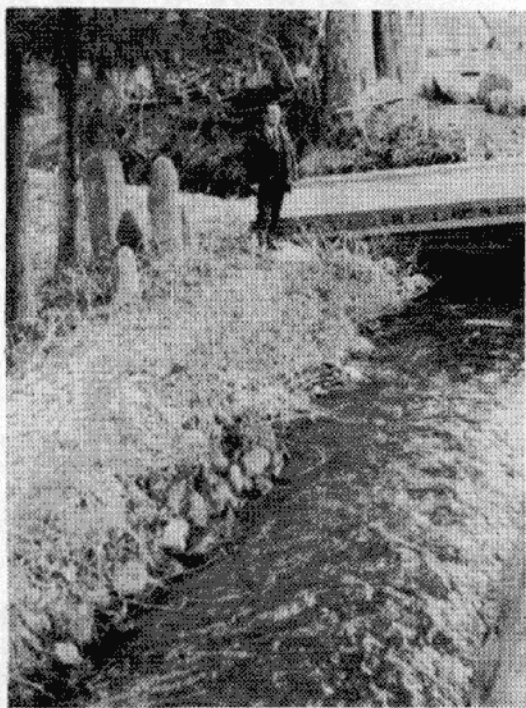
尊徳はそれを知り、村々を

廻り農業などに対する適切な指導を行なうとともに、荒地から失なうものの大きさを説得、開発の必要性を農民にさとし、同年夏には、御神領内の開発予定地を踏査し、すでに開発に努力している者を賞し、貧困者を救うなど、合計百両に及ぶ支給を行ない、農民を感激させました。

その後、良民を賞し、貧民を救い、あるいは家作や農具を与え、こわれた家を修理し、借金の返済に無利息で金を貸し与えるなど、農民のための施策を実施したことにより、荒地は続々と掘り起され、それまでの退廃した空気が一掃され、勤勉な良民となったとのことでした。

女性が初めて中禅寺に登ったのは明治四年二月のことです。高野家(下鉢石町)保存の日記によると、明治四年二月八日の記述で「官員の内、女三人ばかり中禅寺に登山の由、(中略)是れ開祖以来、中禅寺の女人登山の初めなり」とあります。

それにしても、今からわずか百年前までは、女性と牛馬が同じ扱いを受けていたわけで、ウーマンリブが叫ばれる現代とは、まさに隔世の感があります。



▲尊徳翁の遺業である五ヶ村用水(野口地内で撮影)

女性の日光登山を許す  
明治四年二月